

量漸く減し、二十三日雨全く止み水量減退し、市民漸く安堵の思を爲せり。

此大洪水にて市中の諸橋梁悉く流落せるも、千歳橋と緑橋とは石築堅固なりし爲め、能く其難に堪へ、南北往來を援けたり。此二橋は明治九年十年に河野百壽の設計監督と、久保田兼吉の技工に成れるもの、其効没すべからず。之に比し大橋は縣の技師の手に依り、十八年石築したるものなるも、此時の災害にて中門凹みたれば、翌年終に之を徹して木橋とせり。（而して大橋の欄干親柱を移して千歳橋の元のそれと取る親柱に、大橋竣工の年月なりと知るべし）又此時の損害調査左の如し、

家屋流失崩潰百二十一軒○同破損及浸水五千九十一軒○流亡土地反別百八十二町○生毛損害同上○宅地損害百二十七町餘○森林山野損害八反八畝餘○其他損害三町一反餘○堤防切所七百五十三間○堤防缺所二千九百十五間○川除破損百二十ヶ所○用悪水路破損八十二ヶ所○道路毀損五千七百四十間○橋梁毀損五十八ヶ所○橋梁流失七十六ヶ所○此總損害金見積二十五萬九千九百餘圓○尙浸水の爲めの動産損害は見込立たず○以上松本町の分なり。

火 三十五年一月十二日夜、中町松本電燈會社より出火燒失、無風の爲め類焼一戸。

水 三十八年六月降雨連日、廿一日午前十時、女鳥羽川堤防岡宮東にて決潰し、裏町・鍛冶町・餌差町・東町より出井番を流れ、下馬出にて女鳥羽に合流せり。薄川も危険なりしが、最近築造の石堤と消防組の力に依り、辛うじて決潰を防ぎ留めたり。田川諸所小破、出川・並柳浸水、下流豊田町西裏にて切れ、小島鎌田渚を浸水せり。其他鐵道線路の破壊あり、村井松本間一ヶ所、松本田澤間一ヶ所、田澤明科間

一ヶ所ありて、兩日間運轉不能となれり。

水 三十九年七月十六日、田川・薄川・女鳥羽川洪水汎濫し、橋梁堤塘を決壊せり、此時消防組が其防禦に盡力し賞を受く。

火 四十三年五月二十三日源地に火災あり、某製糸場及某寺を燒く、但し其狀況詳ならず。

水 四十四年八月四日、女鳥羽川堤防破壊し、北深志町東部浸水、薄川同じく決潰し、南深志町東南部浸水、此時の損害流家二棟、浸水七百二十戸、堤防破壊延長百三十三間なり。

大火 大正元年（明治四十五年）四月廿二日の松本市大火は明治二十一年の大火（神樂）と同じき大災殃なり。

同日午前二時十分裏町正行寺門前帯方某方より出火、折柄南々東の烈風にて（風速一秒忽ち扇を開きたる如く焰え廣がり、裏町・東町・出井番・片端へ焰え抜け、直にそれだけの幅さを以て北進し、和泉町・袋町・新町・田町を越え盡し、更に北して安原・堂町・西町・同心町・口張町・旗町を燒き拂ひ、東西四丁南北十二丁の市街をば、僅々四時間にて荒寥たる焦土と化し畢り、午前六時鎮火せり。警報と共に全市消防組は勿論、市外近村の外、安筑兩郡の消防四十一組の救援あり。尙其外五十聯隊より六箇中隊、鐵道より一隊の出動あり、烈風に抗し死力を盡して消防に努め、萩町・安原西方及和泉町上方と、旗町西方へ掛け防火線を敷き、家屋を打壊し、以て市の東北隅地域を保全せり。燒失の主なる者は花柳病院・師範寄宿舎の外に、大建築として美遊喜・吉田屋・博愛病院・平林別邸・河野邸・商業及教育兩寄宿、太田骨董・竹内製糸場・下里製糸場等なり。市は直に片倉清澤兩製糸場に托し炊出を開始し、數ヶ所に救護所を設

け罹災者を收容せり。此大災の報天聽に達し、兩陛下より救恤金二千二百圓の下賜あり。其他有志慈善金約二萬圓の寄附あり、夫々分配せられたり。罹災者總計一千三百四十一戸・土藏七十九棟、焼死者五人、損害高百三十萬圓と稱せらる。(本大災以後縣令に依り市家屋の屋上制限法施行せらる。詳しくは警察の掌照の事)

噴火 大正四年燒岳大爆發し大正池を生成す。燒岳は三百四十餘年前の天正十三年に爆發し、其後は休火山となりし者なり。然るに明治三十五年頃より徐々活動を始め、四十年十二月八日爆發し、噴火を繼續し、四十四年七月十二日大爆發を爲し、山頂北側の岩壁に百餘米の大孔を穿ち、松本平より諏訪に及ぼせる大降灰あり、作物に相當の被害あり。其後も毎年多少の降灰あり、今年大正四年六月六日午前七時三十五分、小地震と共に大々爆發あり。今度は頂上を下りたる東側山腹(中堀澤と下)に、幅十間長六十間の裂罅を爆成し。同時に伴うて起りし大暴風の勢と共に、岩石を崩壊し土石を押し出し、一種の泥流を生じ、此泥流は約十五丁を奔下し、溪谷を埋め、梓川本流を堰留め、幅八丁長十六丁許りの大正池(舊林野の命名)を生成せり。其後池尻河底の低下と共に水面稍減じたるも、今日尙長十二三丁の湖水を固定し、神埴内に一段の景勝を添へ得たり。其後五年三月十七日、同月廿日、四月十三日、八年六月六日、十一月一日、同月六日、及其後も時々爆發降灰ありたれど、十二年頃より氣勢漸く衰へ、山頂唯僅かの噴煙を認むるのみなり。

火 大正五年六月十日源池清澤製絲場失火焼失す。

火 大正六年一月九日夜即ち十日午前二時、南新屋逢初橋附近丸山方より出火、逢初町全部焼失、薄

川にて止る。市内外消防三十組、五十聯隊三個中隊出動、消防に盡力せり。罹災百四十三戸、焼死一人、傷死一人、原因不明。

火 同年三月十八日午後八時、松本女子師範學校より出火、寄宿舎及附屬小學の一部を残し、全校焼失原因不明。

火 大正七年三月廿五日午前十時、大柳町柳の湯より出火、巽の強風にて同町五十九戸を焼失す。消防は勿論聯隊よりも出動、小兒一人焼死す。

地震 大正七年十一月十一日午前三時、大町地方強度の地震あり。引續き震動頻回、人皆屋外に起臥す。翌十二日午後四時再度の強震あり、土藏其他潰屋數戸の外、所々柱傾き屋根損し、墓倒れ被害多く、大小餘震數十日に及ぶ。松本及松本地方も可なり感したりしも、被害殆んどなし。

米高 大正七年前より米價漸次騰貴し、此年八月に至り大昇騰、白米八斗三十四圓一升四十五錢となる。之が爲め越中富山を始めとし、各地米騒動起り、富豪を焼討ち人心動搖す。松本にても多少不穩の兆候ありたれば、當地有力者の寄附金二萬餘圓を集め、商業會議所及び市役所の斡旋にて、米穀廉賣を開始し(十錢)八月月中旬より十月頃迄繼續し、以て細民を救恤し人心の安定を保全す。信州にても長野・諏訪・伊那に小騒動あり、近國にては甲府のは凄まじき暴動なりき。

火 大正八年九月廿八日、南新屋野口製絲場焼失、工場の外に竊二千石を失ふ。

火 大正十年十二月十四日、繩手博品館より出火、辨天樓共三棟焼失。